

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2374000285		
法人名	社会福祉法人一誠福祉会		
事業所名	グループホームうらら(あゆの里)		
所在地	愛知県新城市矢部字上の川1番地4		
自己評価作成日	平成27年1月3日	評価結果市町村受理日	平成27年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2374000285-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2374000285-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成27年1月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人理念の「ノーマライゼーション」とホームの理念である「笑・快・安」を基本とし、利用者の持てる力を最大限発揮して頂けるような支援を心がけています。日常生活では、調理や洗濯、掃除を取り入れ家庭的な雰囲気重視しています。気候の良い日の散歩、併設施設との交流、地域事業への参加、他のグループホームとの交流など、できるだけ外に出る機会を多く持ち、地域との交流も大切にしています。日中は出来る限り身体を動かしていただくことで、夜間十分な睡眠が取れるように支援をし、利用者の健康管理に気をつけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの重点的な取り組みとして外出支援があげられ、ホーム周辺の散歩や買い物外出をはじめとして、季節に合わせた外出行事も行われている。食事作りについても、日常的に利用者も参加しており、下ごしらえや調理、片付け等が行われている。職員間で一人ひとりができることを考えながら、その方に合わせた支援に取り組んでおり、利用者が活動的な生活ができるような取り組みが行われている。リビングは開放的であり、利用者が日常的に圧迫感を感じないように自由な雰囲気であり、外に出たい時には外に出ることができる。また、運営法人で複数の特養を運営しているため、ホームでの生活が困難になった際には、法人全体で支援を行う体制が整えられている。当ホームにも隣に特養が併設されており、非常災害時の利用者の安全確保等、合同で対応するような取り組みも行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ全ての利用者に 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「笑・快・安」の理念を基本とし、家庭的な生活を重視し、日中は身体を動かしていただき、夜間はゆっくり休んでいただけるように支援をしている。	職員は、法人の基本理念に基づく支援を基本としており、日常の支援の実践に取り組んでいる。また、ホーム独自の理念もつくっており、ホーム理念を玄関に飾っており、訪問者にも分かるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	公園や神社までの散歩、地域の祭礼・盆踊り・避難訓練・運動会等に参加。食材の買い物は、毎日地元のスーパーに入居者様と一緒に買い物に出かけている。また、併設施設との合同行事や地域内の授産施設との交流の継続など、地域との関わりを重視している。	利用者が地域の一員としての生活ができるように、ホームから地域の活動に参加するようにしており、前向きな取り組みが行われている。また、地域のボランティアの受け入れも行われており、交流に取り組んでいる。	ホームが地域から離れた場所に立地しているため、利用者の馴染みのある地域の行事への参加等、継続した交流に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	日々の生活(買い物・散歩等)・地域の行事参加等、地域の方と触れ合う機会を多く持つことで、活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	家族・地域代表者・他グループホーム職員など毎回10名ほどの方が参加してくださり、それぞれの意見をいただき、その都度報告している。また、会議後家族の方と話し合いの場を持ちサービスの向上に努めている。	会議を土曜日に開催していることもあり、多くの家族をはじめ、様々な分野の方の参加協力が得られている。また、ホームからは、プロジェクターを活用した細かな報告が行われており、出席者にホームの現状が分かるように取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	推進会議の報告、事故報告以外、疑問点・問題点などを担当者に関わり合っている。また、今年から市役所職員と話し合う場を持っている。	管理者は、市担当者との情報交換等に取り組んでおり、市の講習会等への参加も行われている。また、今年度より市内のグループホームの方との連絡会がつけられたことで、定期的な意見交換にもつながっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関の施錠は21時～6時の夜間帯以外はしていない。また身体拘束もなし。建物の構造上階段があるが、利用者の安全面を重視し、階段の上下にはソファを置いている。(市の担当者に是非を問い合わせた上で実施)	ホームは、身体拘束を行わない方針のもと、利用者が自由に過ごしてもらえるように、ホーム内の鍵かけを行っていない。また、併設の特養に専門の委員会があり、職員間の検討も行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修等があれば順番で参加し、資料を回覧している。入居者の方に対しての対応を見直すために職員間での話し合いの場を持っている。また、介護現場における3つのロックを理解し、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	全職員が研修に参加する事は出来ないが、資料を回覧し個々に理解を促している。現在成年後見人制度を利用している入居者様がいる為、関わりの中から知識を得ること、わからないことは質問をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	制度改正の事前説明・入退居の相談等、重要事項説明書を基に契約内容を説明したのち、疑問点等を伺っており、その後もご家族からの意見を聞く努力はしている。(推進会議・訪問時・電話)		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議推進会議ではご家族からのご意見をお聞きし、疑問や提案などを真摯に受け止めている。また玄関に意見箱を設置、毎月のお便りに無記名で意見を送付できる用紙や、直接意見・ご指導を聞いたりし運営に反映させるようにしている。	ホームでは、敬老会の機会に家族も参加した日帰り旅行も企画しており、家族間の交流につなげている。今年度より「ご家族様の声」の取り組みを始めている。また、法人の機関紙の他にもホームからの個別の便りも発行されている。	家族からの意見や要望等がホームの運営の改善や反映につながるよう新たな取り組みも始められている。様々な取り組みが継続して活かされることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティング・ユニット会議(月1回)・全体会議(年4回)を通じて、職員全体の意見・提案を出来る限り聞き取る場を設け、反映させている。	現場職員で話し合うユニット会議の他にも、関連事業所の責任者が集まる会議も行われており、意見等の反映に取り組んでいる。また、職員間で委員会が組織されており、柔軟な把握と共有に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	勤務評価については、日々の勤務状況から評価を行っている。また各職員は、係・行事などの担当があり、向上心を持って働けるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	全職員が個々の能力に見合った外部研修に積極的に参加出来る体制を作り、実践している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	法人内外の推進会議・行事等参加、認知症ブロック会議・勉強会参加を行いお互いサービスの向上に努めている。又、市内のグループホームと連携し、地域へ認知症の理解・支援についての活動を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービス導入の際の聞き取り、職員が情報を共有し、入居者の生活習慣を理解する様に努めている。ご本人が不安にならない様、笑顔で接する事を心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族の希望をお聴きし、多くの事を聞き取る様にしている。来訪者には挨拶を心掛け、明るく馴染みやすい環境づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居者・ご家族の思いをお聴きし、出来る限り以前の生活に近い支援が出来る様に支援内容を考えている。不安なく、安心できる生活環境を常に考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	調理を中心に、入居者に「わからない事を教えて頂く。」を実施。毎日の生活で入居者と職員が寄り添ってともに生活を送る事を大事にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族の方にも一緒に関わって頂き、長寿を祝う会・忘年会の大きな交流の場を設けている。運営推進会議・家族会・日々の生活において、相談・支援を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	外出企画やドライブ企画を立て、ご自身の家や地域に出掛ける事で、知り合いの方にお会いする事がある。主治医は、入所前からのかかりつけ医に行かれています。	利用者が入居以前から楽しんでいた趣味をホームでも継続できるように、家族とも話し合いながら馴染みの関係継続につなげている。また、家族との外出の機会もつくられており、日常的な外出から、時には自宅に戻って過ごしたりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日々の入居者間の雰囲気に応じて、個々の活動、日常生活の活動内容で支援している。個人の能力や好みを把握し、個人に合った支援が出来る様、心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	個々に相談・支援を求めて来られる方はいない。長期入院による対処の際は、今後の特養入所に向けて、情報提供を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の中での会話でご本人の希望、思い等を聞き職員全体で共有しながら可能な限り行わせていただいている。対話のできない入居者は、仕草や表情などでニーズを汲取るようにしている。	利用者一人ひとりの把握のために、24時間シートの活用や担当者による定期的な便りの作成が行われている。また、定期的なカンファレンスによる職員間の共有の他にも、業務日誌には利用者毎に申し送り欄がつけられている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	それまでのケアマネジャーや、サービス機関、医療機関より情報を頂いている。職員も入居者との会話等から個人の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個別記録を中心に生活リズムを大切に、日常生活では心身の状態を観ながら、残存機能に応じた生活を支援している。また、フロア会議等で情報を交換し合っている。職員は得た情報を基にケアに生かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	計画作成者が中心に作成。3ヶ月に1度の見直しを行っている。毎日のミーティング、月1回のユニット会議での検討はもとより、全職員が問題点等ケアに繋がる意見を案件版に記載し介護計画に展開している。	介護計画は、基本、3か月毎に見直されており、日常的にもケアプランチェック表を活用した確認も行われている。また、家族とは、毎月ホームに来てもらうように働きかけを行っており、毎月の確認を通じたモニタリングも行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護記録及びカンファレンス内容に基づき介護計画を作成している。ケアについての気付きは、申し送りノートに記載し、共通理解が出来る様にしている。個々のケース記録には日々の状況を記載し、職員が同じレベルの支援が出来る様にしている。入院され退院した場合には介護計画を再検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	受診は基本、ご家族対応ではあるが、個々の状況によってはホームでの対応もしている。病院までの送迎も場合によっては行っている。季節ごとの行事食や、行きたい所等入居者に聞きながら一緒に考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域行事(祭礼・運動会等)に参加している。また市の行事(夜店・のんほいロットなど)の参加。また馴染みのある地区、地域で行われる行事に出来るだけ参加できる様支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	繋がりを断たぬ様にかかりつけ医を継続して頂き、定期受診は出来るだけご家族にお願いをしている。また、状況に応じ通院支援を行いご家族に報告している。	訪問診療の対応が行われていないこともあり、多くの利用者がそれまでのかかりつけ医を継続しながら受診が行われている。ホームからは、受診の際の情報提供が行われている他、ホーム看護師による健康状態の把握も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	異常があった際には速やかに連絡・情報の共有・相談している。看護師が休日の場合は隣接の特養看護師に報告・相談。また必要に応じて受診できる様に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先に出向き、状況を把握すると同時に、病院関係者に情報を聞き、退院の時期や、その後の支援方法の助言等をもらうようにしている。しかし、日頃からの関係作りはあまりされていない。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	看取りを原則にはしていないが、できる限りホームで生活が出来よう、ご家族に状況を説明し、方向性を相談している。常にご家族と相談している。また、ホームでの対応が不可能になった場合を考え、特養等の施設の申し込みも状況に応じてお願いしている。	利用者の段階に合わせた家族との話し合いが行われており、現状、協力医との密接な関係がないこともあり、終末期の対応については、法人の関連施設とも連携して行われている。そのなかで特養に申し込んでいる方もおり、次の生活の支援も行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	消防署での救急救命法の研修を受講している。安全衛生委員会会議に出席し、情報を得ている。実践力は充分身についているとは言い難く、今後の課題でもある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回、併設施設との合同避難訓練を行っている。ホーム独自にも年2~3回避難訓練を行っている。(日中・夜間・火事・地震を想定)食糧の備蓄をしている。また、備蓄管理の際炊き出し訓練も行っている。矢部地区防災訓練に参加している。	避難訓練は、併設の特養とも連携して行われており、夜間を想定した訓練も行いながら職員間の連携に取り組んでいる。また、備蓄品については、特養の他にもホームでも確保が行われており、迅速な対応に取り組んでいる。	ホームが地域から離れた場所に立地していることもあるため、職員間の十分な連携に期待したい。また、非常災害時の地域の方の受け入れ等、できる協力を考えながら、地域の方との関係づくりの継続にも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりに合わせた声掛けを行なう様に心掛けている。職員同士がお互いに声を掛け合い、協力しあう職場づくりを心掛けている。	職員が日常的な支援のなかで、利用者に普通に会話ができることを考えているが、言葉遣いや対応で気になった際には、管理者からの注意喚起等が行われている。また、外部研修に参加の機会もつくられている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ゆったりと入居者の話を傾聴し、本人の意思・考えを理解しようとする姿勢を常に持つ様働きかけている。自己決定出来ない時は、職員が本人の思いを代行している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ユニット毎の流れもあり、全てにおいて一人ひとりの思いを優先する事は出来ていないが、希望に添えるように努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	日中と就寝時の区別は常にしている。自己決定が出来ない方などは、その方の好みを把握して支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	一人ひとりの力を活かしながら、調理・配膳・片付けを行っている。個々の力を活かしながら、なるべく多くの入居者が食事作りに携われる様、声掛け・支援している。	日常的には、利用者の好みや嗜好にも配慮して調理が行われているが、週1回、併設特養の厨房からの食事提供が行われており、様々な活動につなげている。利用者も食事作りに参加しており、食事の際には、利用者と一緒に食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一緒に食事やおやつを食べることで、味や硬さの確認と、入居者の食事摂取状況や嗜好の把握をしている。毎日食事量の記入・報告を行うことで、職員・看護師情報の共有をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後声掛け・介助にて口腔ケアを行っている。不具合等があればご家族に連絡し歯科受診を行っていただいている。家族の都合がつかない場合、隣接施設の訪問歯科受診、又は個々の受診援助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	一人ひとりの排泄時間に合わせトイレ案内を行うようにしている。現在紙パンツ使用者1名のみとなり、その他の方はパットにパンツ対応に変わっている。今年はオムツはずしをテーマに取り組んでいる。	職員は、24時間のチェック表で利用者の排泄状態の把握に取り組んでおり、基本、トイレでの排泄につなげている。また、職員間でオムツ外しの取り組みを重点的に行った結果、布パンツに改善した方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎朝ヨーグルト提供を行っている。排泄チェック表で便秘日数を記入。朝礼で報告・確認。出来るだけ薬に頼らず、運動や食事・水分等で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	毎日16時頃から19時頃までに入ってもらっている。職員が声掛けを行い入浴していただいているが毎日順番は決まっていない。また、2日に一度だけでいいと言われる入居者の方のため、ご家族と話し合いそのように支援している。	毎日夕方の時間に入浴しており、入浴後に夕食の時間につなげている。多くの方が毎日の入浴を楽しんでおり、季節に合わせた入浴の楽しみも行われている。また、時には特養の大浴場に入っている方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中は出来るだけ活動的に過ごせる様に支援をしている。必要に応じ、自室あるいはソファや椅子で、個々に休息を取っている。室温はエアコンにて調整を職員が行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	看護師が主治医・ご家族への連携を取り、服薬管理をしている。薬の変更はその都度朝礼やノートで申し送っている。また、個々の処方箋をまとめ職員が確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	個々に合ったものを作って頂くよう、日々模索している。活花・菜園・手芸・体操・喫茶店・ドライブ・喫煙等を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	毎日の買物・散歩をはじめ、地域行事・併設施設の行事参加・市内のグループホームや近隣の保育園との交流・家族参加の食事会等を行っている。	ホームでは、外出の機会を多くつくるように取り組んでおり、毎日の特養の裏にあるごみ捨て場所に出かけたり、買い物外出が行われている。また、季節に合わせた外出ができるように、職員で内容を考えながら、外出行事も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	2名の方が手元の財布にお金を持っており、自身で支払いをする。(中身の管理はしていない)他に、預り金としてホームで管理を行っている。外出時、個人の小遣いで買い物をする事があるが、支払は状況に応じて職員が支援をする。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	手紙を出したいと言われる方もいるためその際は預かり金から購入を行い本人管理にて手紙を書かれている。電話等も自分から掛けたいといわれる際はいつでも掛けれる環境にある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	食堂から直接トイレが見えない様にパーテーションを利用している。生花をいけて頂き、居心地の良い空間作りをしている。必要時にはエアコン・加湿器にて気温・湿度を調節している。	ホーム内は広々とした空間を確保しており、利用者が日常生活の中で圧迫感を感じないようにしている。また、リビング内には、利用者の作品や行事の際の写真が飾られていたり、植物が置かれたりしてある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファー、畳コーナー等好きな場所で休める様に配置している。食堂の座席は自由だが入居者間の様子を考慮し、職員が介入する事もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室内は自由に家具等配置し、出来るだけ家にいたときと同じ環境で過ごせるようにしている。本人にとって居心地の良い居住空間となっている。安全面を考慮し、配置換え等を提案。一緒に変えることもある。	居室にはフローリングの他にも畳敷きも設けられており、利用者の生活様式に配慮されている。また、居室内には、使い慣れた家具類が持ち込まれたり、趣味の物等が飾られており、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレを表記する事で、自身で確認していかれたり、色分けされた居室の扉で自室を確認する事が出来ている。食堂のテーブルや畳コーナーで個々に合った活動できるだけ行っている。		